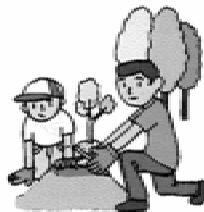


## (2) 「生活環境の保全」 がみんなの力で行われている／10年後にめざす空気・水・土などの姿



○私と家族は、植林ボランティア活動にやってきた。今日は、他の民間団体と合同で小石原村の山に木を植えている。その中には、福岡市の団体や漁民の団体も入っている。不思議がる長男に、「福岡市は筑後川から水を引いているし、海でたくさんの魚がとれるのも、豊かな山が豊かな川の流れを育てているからなんだ。だからわたしたちもここに木を植えるのを手伝っているんだよ」とメンバーの1人が教えてくれた。

○水の循環に興味を持った長男にせがまれて、私たちはエコカーシェアリングで借りてきた低公害車で筑後川の河口まで行ってみることにした。一緒に来ていた3家族もそれぞれ遠賀川、今川、那珂川を下ってみることにした。

○さらに下って、最下流の柳川市に入り、掘割を横目で見ながら有明海に注ぐ河口に着いた。他の川を下っていた3家族からも携帯電話で、それぞれ響灘、周防灘、博多湾に着いたと連絡があった。それぞれの海の水は泳ぎたくなるほどきれいだということだった。もちろん有明海もそうだ。「こんなにきれいな海を通じてアジアの国とつながっているんだね。」と長女が感慨深げに言った。

○帰り道は、すっかり暗くなっていた。郊外の道からでも、夜空にはくっきりと星が瞬いているのが見えた。

## (3) 「循環型社会の形成」 がみんなの力で行われている／10年後にめざす資源や廃棄物との関わり方



○次の日の朝。みんなでご飯と近所で採れた野菜がふんだんに入ったみそ汁を食べた。我が家はエコクッキングを徹底しているので、生ごみはあまり出ない。今日はごみの日なので、長女と長男はごみ出しを手伝った。

○私が住むまちの分別区分数は、10年前は4分別だったが、リサイクルシステムの進展に伴って、今では15分別になり、資源の有効利用が図られている。子どもたちは、物心ついたころから分別の習慣ができていたので、全く苦にならない様子だ。

○一方、私は、仕事で北九州エコタウンに来ていた。ある事業所で廃棄物となったものを別の事業所の原料として運ぶのが私の仕事だ。この10年間、福岡県内では全国に先駆けてさまざまなリサイクル技術の開発・実用化が進み、この仕事への需要はますます高まっている。県内の環境産業全体が急成長しているのだ。



○そういえば大牟田エコタウンに数年前に進出した環境関連企業に技術者として勤めている従妹から来週遊びに来ると連絡があった。私のまちで毎週のように開催されて、掘り出し物がたくさんあると評判のフリーマーケットに従妹を案内してやろう。と私は考えた。

